

魅力ある学校づくりに 向けた取組について (たたき台)

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課

県立高校が目指す10年後の姿（たたき台）

【参考】
第3回検討会資料

検討にあたってのコンセプト～R6.8第2回検討会より～

- ①高校生、誰一人取り残すことなく、未来の社会を生き抜く力を身につけられるようにする。
- ②どこでも高校教育が受けられるよう、できる限り地域に高校を残していく。
- ③人口減少時代の「地域における高校のあり方」について、多様な主体（子ども・保護者・教職員・地域）とともに考え、より魅力ある学校を創り続ける。
- ④そのために、地域と一体の協働体制を構築することが、地方創生にもつながる。

県立高校が目指す10年後の姿（たたき台）

【参考】
第3回検討会資料

高校魅力化の方向性等に関する主な意見

■地域意見交換会アンケート<回答数1,488>

① 地域における高校教育の重要性

- ・子どもたちの学びの場として重要な基盤
- ・地域活性化に欠かせない存在

② 魅力的な教育プログラムと教育改革

- ・時代の変化に対応できる力をつける教育
- ・グローバル化や未来を見据えた教育の革新
- ・地域資源を活かした特色ある学科や学びの充実
- ・生徒主体の柔軟で多様な教育スタイルの推進が必要

③ 地域との連携強化

- ・学校と地域住民、小中学校、企業等との連携により「ふる里愛」を醸成し、卒業後も地元に貢献できる人材の育成が必要

④ 持続可能な運営と環境整備

- ・地域密着型の学校運営、ICT活用、施設・設備整備
- ・寮又は下宿等の整備、通学しやすい環境の整備
- ・効果的な広報活動と地域資源の有効活用が必要

■県立高校教職員アンケート<回答数1,479>

① 全体的な教育改善の方向性と財政措置

公教育の質の向上と長期的な財政措置が必要

② 地域との連携・協働

地域や行政と一体となった計画策定と実行が必要

③ 教育内容・カリキュラムの多様化

授業やカリキュラムの充実、特色ある学びや多様な学びの提供が必要

④ 不登校経験者や多様な背景を持つ生徒の学びの充実

少人数制や柔軟な学びの仕組みづくりが必要

⑤ 教職員の業務負担軽減、環境改善

職員がいきいきと働くことが、生徒の充実した学校生活や学校の魅力化に繋がる

⑥ 情報発信力の強化や保護者へのアプローチ

効果的な魅力発信のための体制づくりが必要

県立高校が目指す10年後の姿（たたき台）

【参考】
第3回検討会資料

くまもと新時代教育大綱（R6.12）

<基本理念>

自らの可能性を拡げ、未来を切り拓く 熊本の人づくり

<基本目標>

- 1 変化の激しい時代に対応した質の高い教育の推進
- 2 共生社会の実現に向けた教育の充実
- 3 世界に羽ばたく志ある人材を育てる魅力的な学校づくり
- 4 活力あふれる熊本の実現に向けた文化・スポーツの振興
- 5 災害からの復旧・復興及び記憶の伝承、
『こどもまんなか』視点での教育施策の推進

県立高校が目指す10年後の姿（たたき台）

基本理念（案）

【志を育て、未来を切り拓く力を育む学校づくり】

- 高校卒業後に社会人となる生徒も多い中、「志」を育み、生徒一人一人が「予測困難な時代」を生き抜いていく力を身につけられるよう、質の高い教育の実現を目指す。
- 人口減少の時代においても、公教育の観点から、教育を受ける機会や県立高校において確保すべき教育内容や水準は、生徒に対して平等に保障される必要がある。
- 子どもたちの未来や、地域・社会の未来を見据えつつ、時代の変化に対応しながら地域における高校のあり方を多様な主体（生徒・保護者・教員・地域）とともに考え続けていくことが重要である。

県立高校が目指す10年後の姿（たたき台）

【参考】
第3回検討会資料を
基に作成

基本理念案

志を育て、未来を切り拓く力を育む学校づくり

目指す県立学校像案

- ・時代に対応した質の高い学びや、地域の特色を活かした学びを多様な主体とともに創る学校
- ・世界や地域で活躍する人材を育てる学校
- ・多様な他者と協働しながら、社会に主体的に参画する心を育む学校

取組の基本的方向性案

今回第4回検討会にて議論

前回第3回検討会にて議論

①魅力ある学校づくりに向けた取組

■地域との協働体制の構築

- ・魅力化コンソーシアムの構築及びコーディネーターの配置
- ・企業等と連携した学びの充実
- ・小中学校と連携した地域での教育活動の推進 等

■時代に対応した特色ある学びの推進

- ・熊本スーパーハイスクール構想や高大連携等の推進
- ・キャリア教育の充実や半導体、DX関連人材の育成
- ・グローバル人材の育成 等

■多様なニーズに応じた学びの場づくり

- ・遠隔授業、学校間連携の推進
- ・全定通にとらわれない柔軟な学びの導入検討
- ・インクルーシブ教育の実現 等

■学びを支える教育環境の整備

- ・施設、設備の充実・教育DXの推進・部活動の充実 等

②人口減少を見据えた教育環境の整備

■募集定員の見直し

- ・熊本市内の大規模校の学級減を含めた計画的な見直し
- ・一律の適正規模は定めないが、地域と一体となって魅力化に取り組むため、学校存続等の目標となる基準を明確化
- ・少人数学級編制（1学級40人未満）の本格的な導入検討
- ・私立高校との十分な協議 等

■学科・課程のあり方

- ・普通科の魅力化、特色化
- ・地域における学びの充実を目的とした、学科や学校の発展的統合等の検討（小規模化への対応）
- ・全定通にとらわれない柔軟な学びの導入検討（再掲） 等

■通学区域・学区外枠

- ・現行の3学区、学区外枠13%を維持
- ・学級減等による受検者の動向等を見ながら見直し 等

魅力ある学校づくりに向けた取組（案）

- ・地域の自治体・企業・大学等といった多様なパートナーとともに、生徒一人一人の心に火をつけ、地域社会への貢献の経験をもとに生徒の志を育て、未来を切り拓く力を育む。
- ・Ⅰ～Ⅳを取組の基本的な方向性とし、生徒にとって安全で安心な、県内外から選ばれる魅力ある学校づくりに取り組む。

少子化が進行する中でも持続可能な学校づくりや学びの充実のためには、**地域との連携・協働**が必要不可欠。



Ⅰ 地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進

グローバル化や急速な技術革新の進展等、社会が激しく変化する中、**新しい時代に対応した学び**の更なる推進が必要。



Ⅱ 時代に対応した質の高い教育の推進

地理的な状況や学校、課程、学科の枠にかかわらず、**多様な学習ニーズに対応した柔軟な学びの共創**が必要。



Ⅲ 多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進

教育活動や学校運営の基盤となる**環境整備**が必要。



Ⅳ 学びを支える教育環境整備の推進

魅力ある学校づくりに向けた取組（案）

■取組の基本的方向性と主な施策案

I 地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進

- ①地域との協働体制（高校魅力化コンソーシアム）の構築及びコーディネーター配置の推進
- ②地域と連携したキャリア教育や専門的な学びの充実、半導体関連人材の育成
- ③小中学校と連携した地域での教育活動の推進
- ④地域の私立学校等と連携した教育活動の推進

II 時代に対応した質の高い教育の推進

- ①熊本スーパーハイスクール構想、高校間連携の推進
- ②高大連携・高大接続の推進
- ③グローバル人材の育成
- ④D X 関連人材の育成

III 多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進

- ①I C T の活用による遠隔授業の充実
- ②全定通にとらわれない柔軟な学びの導入検討
- ③インクルーシブ教育の充実
- ④地域や学校の特色を踏まえた部活動の充実

IV 学びを支える教育環境整備の推進

- ①施設、設備の充実
- ②教職員の確保や弾力的な配置、スーパーティーチャー（指導教諭）の活用、業務の精選・重点化、スキル向上
- ③教育D X の推進

I 地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進

■現状

1 地域との連携により特色ある学びを展開

- ・高森高校マンガ学科や水俣高校半導体情報科の設置をはじめ、地元自治体や企業等との連携協定に基づく全国的にも珍しい新学科の設置や特色ある学びの展開に取り組んでいる。

2 産業界との連携によりキャリア教育が充実

- ・地元企業等との連携によりインターンシップや最先端の学びに触れる機会が増え、実践的なキャリア教育によって職業意識の形成が進んでいる。
- ・マイスター・ハイスクール事業をはじめ、産業界と連携した地域の産業人材育成の更なる展開に向けて取組を進めている。

■課題

1 地域との連携の深化

短期的な連携にとどまらず、**学校と地域がビジョンを共有し、継続的に連携・協働できる仕組みづくりが必要。**

3 生徒の選択肢の制約

生徒がより広い進路選択を考える機会を失わないよう、特色ある学びだけではなく**バランスをとることが必要。**

2 教職員の業務増

連携先が増えるほど教職員の業務が増加してしまう。教職員の働き方改革の視点を持った連携強化が必要。

4 情報発信の不足

地元の小中学生や保護者、地域住民等に各校の魅力を伝える機会がまだまだ不足。交流や情報発信の強化が必要。

■主な施策案（参考資料P 2～9）

- ①**地域との協働体制（高校魅力化コンソーシアム）の構築及びコーディネーター配置の推進**
- ②**地域と連携したキャリア教育や専門的な学びの充実、半導体関連人材の育成**
- ③**小中学校と連携した地域での教育活動の推進**
- ④**地域の私立学校等と連携した教育活動の推進**

Ⅱ 時代に対応した質の高い教育の推進

■現状

1 課題解決能力や創造性を育成する学びの広がり

- ・各校において、地域資源の活用や高校間連携を通じた総合的な探究の学びが実践されている。
- ・高大の組織的な連携により、大学教員による探究活動支援や高大接続入試（探究活動を評価する総合型選抜）を実現。
- ・S T E A M教育※の視点を取り入れた教科横断的な学びが広がりつつある。
- ・国際的な視野を持った人材の育成のため、国際バカロレア教育プログラムの導入を進めている。

2 最新技術を活用した学びの広がり

- ・デジタル技術を活用するスキルの習得や、最新技術を活用したスマート産業等の人材育成に取り組んでいる。

※科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術（Arts）、数学（Mathematics）を組み合わせた学びを通して、創造性や問題解決能力を育成

■課題

1 持続可能な仕組み

総合的な探究の学びが進む中、持続可能な取組としていくための継続的な予算の確保が必要。

3 設備等の充実

I C T機器等の設備は更新が必要であり、時代に合った学習環境を整備するためには予算の確保や地元企業等の協力が必要。

2 高大接続の強化

高大接続入試の更なる導入や、単位認定の仕組みの検討について、大学への働きかけが必要。

4 教職員のスキルアップ

探究の学びや時代に対応した学びを効果的に進めるためには、教職員のスキルアップも必要。

■主な施策案（参考資料P 10～15）

- ①熊本スーパーハイスクール構想、高校間連携の推進
- ③グローバル人材の育成

- ②高大連携・高大接続の推進
- ④D X関連人材の育成

Ⅲ 多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進

■現状

1 遠隔授業の実践

- ・熊本版C O R Eハイスクールネットワーク事業により、小規模校への遠隔授業の配信を実施しており、地域による教育格差の解消に取り組んでいる。

2 通信制課程への進学者の増加

- ・義務教育段階での不登校経験者の増加や学習ニーズが多様化する中、通信制課程への進学者は年々増加している。

3 特別支援教育を必要とする生徒の増加

- ・特別支援教育支援員の配置や通級による指導、合理的配慮支援機器の貸与等を実施している。

4 部活動による魅力化

- ・スポーツコース設置校は、県教育委員会が強化競技種目を指定している。それ以外の学校は、学校独自に特色ある部活動の充実に取り組んでいる。

■課題

1 学びの選択肢の確保

少子化が進行する中でも、ICTの活用等により開設科目を増やすなど、遠隔授業のさらなる充実が必要。

2 通信制ニーズの増大

通信制のニーズが高まる中、多様な学習ニーズの受け皿となるよう、柔軟な学びの導入の検討が必要。

3 インクルーシブな学校運営

共生社会の実現に向け、障がいのある生徒と障がいのない生徒が可能な限り共に学ぶ環境づくりが必要。

4 部活動の推進

部活動の実績を加味した入試制度の見直し、優秀な指導者の継続的な育成・配置、施設・設備の充実等が必要。小規模校では部員の減少により活動が困難になるケースもある。

■主な施策案（参考資料P 16～26）

① ICTの活用による遠隔授業の充実

② 全定通にとらわれない柔軟な学びの導入検討

③ インクルーシブ教育の充実

④ 地域や学校の特色を踏まえた部活動の充実

Ⅳ 学びを支える教育環境整備の推進

■現状

1 施設・設備の老朽化

- ・ 県立学校 69 校中 58 校の施設が築 40 年以上経過しており、老朽化が著しい。
- ・ 長寿命化プランに基づき老朽化対策を計画的に進めるとともに、トイレの洋式化やバリアフリー対策に取り組んでいる。

2 教職員の確保、負担軽減等

- ・ 働き方改革推進プランに基づく業務削減や人材確保等の取組を進めており、教職員の更なる教育環境改善のため、教員をサポートする教員業務支援員の全校配置を進めている。
- ・ 高い指導力を持つスーパーティーチャーを配置している。

3 ICT環境の整備

- ・ GIGA スクール構想に基づき一人一台端末等が整備され、ICTを活用した学びが普及してきている。

■課題

1 施設・設備の維持・改修コストの増大

- ・ 生徒にとって魅力的な施設・設備が必要な一方で、資材費や人件費の高騰等により管理コストが増大しており、十分な予算の確保が必要。

2 教職員の働き方改革の推進

- ・ 人材確保や育成、活用に引き続き取り組む必要がある。
- ・ 教職員のウェルビーイングの向上に向け、働き方改革の視点を持ちながら魅力ある学校づくりを進める必要がある。

3 ICTを活用した学びの充実

- ・ ICTの活用による「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を図っていく必要がある。

■主な施策案（参考資料P 27～29）

①施設、設備の充実

②教職員の確保や弾力的な配置、スーパーティーチャー（指導教諭）の活用、業務の精選・重点化、スキル向上

③教育DXの推進